

こころのケア

～メモリーブックを通じた
メモリーワークという活動～

HIV陽性者・エイズ患者さんやエイズで親を失った子どものこころのケアの一環で、メモリー・ワークと呼ばれる活動があります。メモリー・ブックと呼ばれる日記に、自らの人生をカラフルに表現、記述します。自分のルーツや思い出を振り返ることで、家族や地域に対する帰属意識を高め、生きる希望を育むのが目的です。現在では、自分の将来を物語る「ヒーローワーク」という活動も取り入れ始められています。(2009年現在)



メモリーブックを作成する人々



色鮮やかに描いていきます



エイズで親を失った子どもたちも参加



完成したメモリーブックの表紙



家系図を描いたり、写真を貼ったり。

